

### パネルディスカッションテーマ 「男女共同参画の 視点に立った地域づくり」

地域が抱えている課題はいろいろ。安心・安全で暮らしやすい地域社会を築くために、さまざまな立場のパネリストからの意見を聞くことができました。

薩摩川内市役所

企画政策部長

永田 一廣

市制施行10周年、地区コミュニティ協議会制度が定着してきている。合併と同時に男女共同参画基本条例を制定したが、手詰まり感があった。女性50人委員会は、サービスを送る側の実践、行動をする提案をしていただき、感謝するともに心強く思った。今後の地域コミュニティ活動に女性の参画を期待する。



女性50人委員会  
第5期会長

内野 久子 さん

第5期の活動で、私たち自身で何ができるかを協議し、地域づくり事業構想を取りまとめた。すでに実践されている上村修さんに、苦労したことや取り組んで良かったことなどを教えてほしい。



NPO法人  
福祉相談センターにじ  
理事長

上村 修 さん

地域で暮らす独居男性や元気な退職者男性など、気になる男性の居場所と役割創出のため、平成23年から男談(だんだん)事業を始めた。刃物研ぎなどのボランティア活動や地域の交流事業をしている。苦労したことは事業を始めるにあたって、誰に理解してもらおうかと考えたとき、仲間同士だけでは広がらないと考え、自治会長や民生委員の方たちに説明をした。反対意見も出たが、繰り返し丁寧な説明をすることで賛同者も多くなった。

地域でのネットワークを築けず、パチンコをすることが日課だった男性が、活動に参加し、その男性の妻から感謝の言葉をもらったときはうれしかった。



高来地区コミュニティ協議会  
健康福祉部会長

上野 恭子 さん

なでしこ女性会がある。女性からの地域の問題点を声を地区コミュニティ協議会が取り上げてくれる。高来地区は青壮年会活動も活発で、川祭りなど地域事業が楽しく運営されている。地域の人は、お互いをよく理解して声を掛け合っている。地区コミュニティ協議会にはいつも人がいて、行くのがとても楽しい。高来地区の人口は減っていない。高齢者の方々にも積極的に声掛けをしている。



鹿児島県共生・協働推進課長

印南 百合子 さん

誰にとっても出番と居場所がある共生社会を実現するためには、NPOや地域コミュニティ、企業、学校行政などの多様な主体が、一人一人の人權を尊重する男女共同参画の視点に立って、地域課題の解決に協働で取り組む地域づくりの実践を重ねることが重要である。

### ダイアログカフェ

安心して話せる場

ダイアログカフェは、ワークショップという体験型の学習方法を用いて行われました。男女合わせて約80人の方が参加し、10グループに分かれました。次の2つのルールのもと、参加者一人一人が多様性を認め合い安心して話せる対話の場が作られました。

ルール①(守秘)

本人の許可なしに、この場で話したことなど、他の場で話さない。

ルール②(尊重)

自分の意見をいう時は、他者の意見を否定、非難せずに伝える。

性別、年齢、職業などの属性に関わらず、さまざまな人と、女性50人委員会の活動発表とパネルディスカッションを振り返りました。



### ファシリテーター(進行役)から

一人一人が対等に  
対話をする

ワークショップデザイナー  
高嶋 恵 さん

私たちは、人との違いを恐れ、同調圧力をかけ合い、個人の多様性を認め合えなかったり、対等でない関係を作ってしまったかっています。例えば、「同じ地域に住んでいるのだから参加するのは当たり前」と、本来参加、不参加を自分で決められるはずの地域活動が半強制的になってしまいます。「男性は先頭に立って物事を決める、女性は補助」と、性別によって役割を決めてしまうと、女性が自ら意見を発信しにくくなる。その結果、個人の多様な生き方を尊重できなくなってしまいます。

また、話し合いでは、Aという意見とBという意見が出た時、意見を戦わせて討論になり、多数決によってそのどちらかに決めることが多くないでしょうか？もしもAが多数派だった場合、少数派Bの意見は反映されず、Bの人々は参加に消極的になってしまいます。これでは、いつも同じ人が運営を決め、他の人はそれに従う形となり、地域の多様性を認め合えない雰囲気が生まれてしまいます。そうではなく、AとBという考えから新しくCという考えを生み出すため、対話をするのが大切です。自分の気持ちを我慢したり、逆に自分の意見を押し通そうとするのではなく、自分の人權を尊重しつつ、相手の人權も侵害することなく、一人一人が対等に発言できることが、多様な地域課題を解決するための鍵となります。対話をした結果が、限りなくAに近いBであったり、その逆であったり、全く異なる結論になったとしても、対話を経て決めたことにはそれぞれの意見が反映されているため、みんなが参加できる可能性を作ることができます。

### 他者に対するまなざしを変える

私たちは、地域の中で、男だから、女だから、高齢者、障がいがある人だから…とその人が持つ属性の一部分だけを見て、その人を疎外したり、その人が持つ能力を生かす機会を奪ったりしてしまうことが多くあります。そうではなく、例えば、料理が得意な男性が地域での炊き出しに参加できる雰囲気づくりや、女性も気兼ねなく意見を出し合える話し合いの場を作ることが大切です。また、さまざまな世代、立場の人々が気軽に集まり親交を深めることのできる居場所の提供をしたり、地域との関わりが希薄な人へ向けられがちな「あの人はいつも不参加だ…」といった視点を、「不参加である人にはどういった参加の仕方があるのか」というまなざしを変えることも大切です。

\*今回掲載した参加者のつぶやきは、男女共同参画政策事業などに活用することについて許可を得ています。



### 参加者のつぶやき

地域への口頭から思いを伝える(経験者さん)

☆私の地域では、元自治体職員、元自衛官、元警察官、元教員だった男性が中心となり地域活動の中心を決めています。しかし実際にそれを支えているのは女性たちです。

☆私の地域では自治会長はずっと同じ男性で、男性主体の地域運営が続いています。そのため女性が参加しづらく、意見を出してもそれが反映されにくい現状があります。

☆年配の人のみが運営方法を決めてしまうと、若い世代は関心を持っていない。若い世代も意見を言えるような話し合いの場、雰囲気があればいいのと思います。

☆女性が参加するしたら地域での炊き出しの場ぐらいです。

☆地域行事は、集まれる人だけでなく、集まらない人にも注目することが大切。こう考えることで、いろいろな人の生活上の悩みや課題に対応することが出来るのではないのでしょうか。

☆地域の中では、女だから、よその地域から来た人だからという思い込みによって、その人自身の個性や能力を見られなくなっている場面が多くあります。

☆今日は同じグループの人が話を遮ることなく最後まで聴いてくれたから、年齢の若い、しかも女性である自分でも積極的に話すことができました。